

学校だより

さくらっ子

四日市市立桜小学校

平成30年6月13日

第9号



気持ちいい！プール開き

大型台風の影響が心配された6月11日(月)は、子どもたちの願いが届いたようで、曇り空ながらもおだやかな天候となり、一部の学級では予定どおりにプール開きをすることができました。

キャー！冷たい!! 地獄のシャワーやっ！

運動場で元気よく準備体操をした子どもたちは、先生の指示に従って、順番にシャワーを浴び、腰洗い槽で消毒してからプールサイドに整列しました。

そして、先生の号令で、自分の足やお腹、顔に水をかけたり、腰かけたままバタ足をしたりして、水の冷たさ確かめました。自然と大きな歓声が起こりました。

それから、プールに入り、学年に応じた活動に取り組みました。

低学年では、友だちの肩に手を置いて、電車ごっこのように水の中を歩き回りました。高学年では、プールの淵をグルグルと歩いて水の渦を作ったり、プールの横の長さをバタ足で泳いだり、貝殻拾いをしたりしました。

久しぶりのプール。楽しい時間は、あっという間に過ぎました。子どもたちは、友だちとバディを組み、助け合いながら安全に水泳を楽しむことができました。



～お知らせ～ 6月16日(土) 緊急時引き渡し訓練

6月16日(土)は、今年度3回目の土曜授業があります。すでに文書でお知らせしましたように、この日の下校時に、保護者の皆さまのご協力の下、『緊急時引き渡し訓練』を実施します。

混乱を避け、よりよい訓練にするために、再度ご注意いただきたいポイントをお知らせします。

- 【ポイント①】「すぐメール」配信後にお迎えに来てください。より実践的な訓練とするためです！
- 【ポイント②】できるだけ車でのお迎えはご遠慮ください。全児童が対象で、混雑するからです！
- 【ポイント③】車は運動場の東門（保健室近く）から入り、職員の誘導に従って駐車してください。
東門に入る道は、北方向からの一方通行です。奥山商店側からは入れませんのでご注意ください。
南門（二宮金次郎の像近く）は出口専用ですので、南門から入らないようにしてください。
駐車の際の物損事故などについては、学校では責任を負いかねますのでご了承ください。
- 【ポイント④】事前の届け出に名前のある方が、各教室で児童を引き取ってください。
校舎には、運動場側東昇降口から入り、運動場側西昇降口から出ていただきます。
靴を持って教室へ迎えに行ってくださいますので、各自ビニール袋などを持参ください。
各教室では、担任がお迎えに来ていただいたことをチェックします。ご協力を。
- 【ポイント⑤】運動場での運転は、歩行者の動きに十分ご注意ください。お互いに譲り合いを！

詳細については、6月1日配布の文書『緊急時引き渡し訓練について』でご確認ください。



いろいろな本を読み、読書を楽しもう ～図書館まつり～

本校では、子どもたちが読書に親しむことを願って、6月4日(月)～15日(金)の期間を『図書館まつり』と位置づけ、以下のような取り組みを進めているところです。

- ① 朝の10分間読書(全校一斉読書)
- ② 家庭読書カード
- ③ 読書の花
- ④ 図書委員会「おすすめの本」紹介
- ⑤ 図書館司書による催し



写真は、6月8日(金)の20分休みに、図書館まつりの一環として行われた図書ボランティア(読み聞かせ)の皆さんによるパネルシアターの様子です。

会場の視聴覚室は、1年生から6年生までの児童で満員となりました。演じていただいた『にゃーご』は、ねことネズミたちのほのぼのとしたお話です。これらのキャラクターや背景などは全てボランティアの皆さんの手作りだそうです。

子どもたちは、目を輝かせてお話の世界に浸っていました。毎年楽しみにしている児童もたくさんいました。本(物語)の世界ってすばらしいですね。

ボランティアの皆さん、ありがとうございました。また、お願いします！



～遠い日に見た風景、ふとした時に思い出す幼い頃の記憶を『心象風景』というそうです～

松阪市生まれの私が、まだ小学校に上がる前のことです。当時は自家用車に乗る人の数は少なく、小学校の教師をしていた私の父も、バイクで毎日通勤していました。その父が、休みの日の朝になると、幼い私を後ろに乗せて、「裕也、行くぞ!」とバイクを走らせました。行き先は、家からバイクで10分ほど走った小高い丘で、父はいつも決まってその頂上でエンジンを止めました。見渡す限り一面の田園が広がっていました。「もう、そろそろ来るぞ」父が見つめる遠く地平線の彼方に、小さく黒い点が見えたかと思うと、もうもうと白煙を立ち上げながら、真っすぐに私たちのいる丘に向かって近づいてきました。今では見ることもない蒸気機関車です。

ダッ!ダッ!ダッ!・・・ポーツ!!

とにかくすごい迫力。煙突から煙をたなびかせ、地響きを上げながら足元のトンネルをくぐりぬけ、耳が痛くなるような警笛音を残して、あっという間に反対方向に去っていきます。

後には、何事もなかったかのように、静けさがもどります。父とどんな会話をしたのかは覚えていませんが、父が見せてくれた蒸気機関車の迫力は、今も強く心に残っています。(森本)



海外で大きな賞をとった是枝監督の映画『万引き家族』を観てきました。重い社会問題をテーマにした映画でした(大人向きです)。観た人は、東京で起きた5歳女兒の虐待死事件を思い浮かべると思います。映画の中で「子どもは親を選べない」というセリフがあります。「…できるようにするから ゆるしてください…」親として、人として、子どもにこんな思いをさせてはいけません。強くそう思います。

